

## 第 6 回 HiSoPra\*研究会プログラム

2023 年 3 月 21 日 (火・祝) オンライン開催

13:00 開会

### 第 1 部 研究発表

13:10–13:45 研究発表 1 司会 寺澤 盾 (青山学院大学)

田尻小夏 (京都大学大学院生)

「*Beowulf*における関係詞の選択」

13:50–14:25 研究発表 2 司会 佐藤 恵 (慶応義塾大学)

大倉子南 (日本学術振興会特別研究員 DC2、学習院大学大学院生)

「ベルリンの街並みにみる文字景観 (1860–1960 年) —なにが文字書体の選択を決定したのか」

14:30–15:05 研究発表 3 司会 渋谷勝己 (大阪大学)

川瀬 卓 (白百合女子大学)

「副詞『どうぞ』における『依頼』から『勧め』への変化」

休憩

### 第 2 部 ラウンドテーブル

15:20–17:20

「歴史社会言語学・歴史語用論研究の現状と今後の展開——資料と方法を中心に」

司会 家入葉子 (京都大学)

話題提供者 宮川 創 (国立国語研究所)

「幕末・明治期の新約聖書の日本語諸訳とベッテルハイム沖縄語訳における敬語と待遇表現」

話題提供者 森 勇太 (関西大学)

「日本語の HiSoPra 研究はコーパスとどうつきあうか」

話題提供者 朝日祥之 (国立国語研究所)

「『埋もれた声』を蘇生し、研究する——ニッケイ社会で形成・変容した日本語変種の場合」

話題提供者 家入葉子 (京都大学)

「コーパスと英語学研究——2010 年代と今」

討論者 高田博行 (学習院大学)

討論者 堀田隆一 (慶應義塾大学)

17:20 閉会

### 研究会へのご参加に際して

\*Zoom によるオンライン開催となりますので、事前の参加申し込みが必要です。3 月 12 日 (日) までに、以下の URL からお申込みください。参加者には、研究会の 5 日前を目途に Zoom のミーティング ID とパスコードをお知らせします。

<https://forms.gle/ess9b34dUVPG2FAZ6>

## 研究発表 要旨

「*Beowulf*における関係詞の選択」

田尻小夏（京都大学大学院）

英語の関係詞にはいくつかの選択肢が存在する。古英語の関係詞については、主に不変化詞 *be* タイプ、指示代名詞 *se* タイプ、複合形式の *se þe* タイプが存在し、先行研究ではこれらの使い分けについて、テキストタイプや先行詞の種類、制限/非制限用法の違い等をパラメータに様々な分析が行われてきた。これまでにいくつかの傾向は指摘されているが、明確な使い分けは示されていない。

本発表では、古英語の関係詞の使い分けについて *Beowulf* を対象に節ごとの使用頻度から分析を行う。全体を通して *se þe* の複合形式の頻度が高いが、一部不変化詞 *be* タイプの頻度が高い場面がある。ここから、*Beowulf* の作者が物語の場面に応じて関係詞を使い分けていた可能性を検討する。

「ベルリンの街並みにみる文字景観（1860–1960 年）—なにが文字書体の選択を決定したのか」

大倉子南（日本学術振興会特別研究員 DC2、学習院大学大学院）

ドイツでは、20 世紀半ばまでドイツ文字（フラクトゥーア体）とラテン文字（アンティカ体）の二つの文字書体が併用された。ナショナリズムとの関わりのなかで、どちらの文字書体を使用するかについて 20 世紀初めには帝国議会において議論され、その後ナチスドイツにおいてラテン文字の原則的採用が決定されるなど、国家レベルでの解決が模索された。本発表では、首都ベルリンにおける文字書体の使用実態（＝文字景観）を 1860 年から 1960 年の写真資料をもとに復元し分析する。ベルリン市民の実生活レベルにおける文字書体の使用状況を数値化することによって、この 2 つの文字書体の選択にどのような変数が関わっていたのかについて明らかにすることを試みる。

「副詞『どうぞ』における『依頼』から『勧め』への変化」

川瀬 卓（白百合女子大学）

本発表は、幕末期、および近代初期において話し手利益の行為指示（依頼）で用いられていた「どうぞ」が、どのようにして聞き手利益の行為指示（勧め）で用いられるようになったのかについて考察する。発表者は、川瀬（2015）で、「どうぞ」が江戸時代を通して行為指示の副詞へと変化し、さらに近代以降（とくに 1880 年代生まれの作家の作品以降）、次第に勧めを表すようになっていったことを示したが、大まかな推移を述べるにとどまっている。本発表では、「どうぞ」がどのような依頼で用いられていたのか、そこからどのような動機づけによって、どのように勧めへと変化していったのかの詳細を分析し、行為指示表現の変化における語用論的要因を明らかにしたい。

### 参考文献

川瀬卓（2015）「副詞「どうぞ」の史の変遷—副詞からみた配慮表現の歴史、行為指示表現の歴史—」『日本語の研究』11(2): pp.16-32, 日本語学会.